

指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

○推進施策1 県民の文化活動の促進

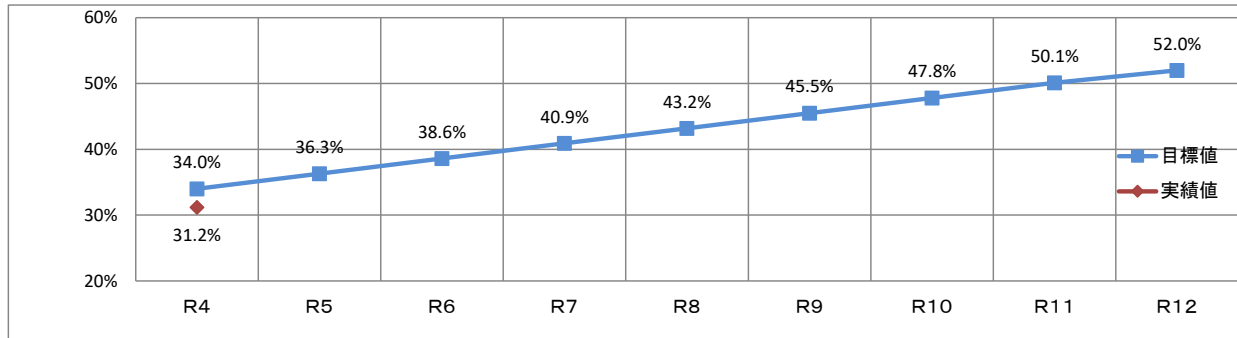
No.1 文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(鑑賞を含む)【目標値:52.0%以上(令和12年度)】

評価

B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	34.0%	36.3%	38.6%	40.9%	43.2%	45.5%	47.8%	50.1%	52.0%
実績値	31.2%								



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・県内においてコロナ対策を講じながら有観客での各種イベント等も実施されるなど、鑑賞や参加する機会が増えてきたと思われる。また、県としても県総合美術展覧会における入選作品のウェブ展示やふるさとの祭りにおける民俗芸能の公演のYouTube配信のほか、今年度よりメディア芸術作品のウェブによる募集・展示、県文学賞における電子データでの作品応募受付など、デジタル技術を活用した文化活動に触れ親しむ機会の拡大に取り組んできた。これらの結果として、目標を概ね達成することができた。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる県民が身近に文化に触れ親しむことができる環境づくりとして、デジタル技術の活用による文化の鑑賞機会、活動機会の拡充に継続して取り組むとともに、効果的なPRIに取り組んでいく。 ・市町村や各ホールと連携し、県民の文化活動の主体性の育みにつながるワークショップや出前講座など住民参加・体験型事業の拡充に努めていく。 ・次代の豊かな文化の担い手となる青少年の文化活動を促進し、生涯にわたり文化に高い関心を持つ基盤を築いていく。

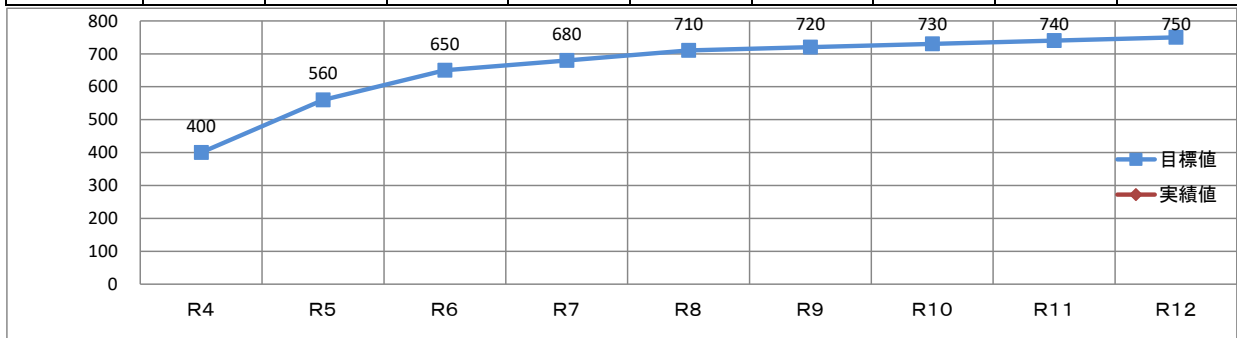
No.2 市町村生涯学習講座受講者数(人口千人あたり)【目標値:750人(令和12年度)】

評価

—

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	400	560	650	680	710	720	730	740	750
実績値		調査集計はR5に実施							



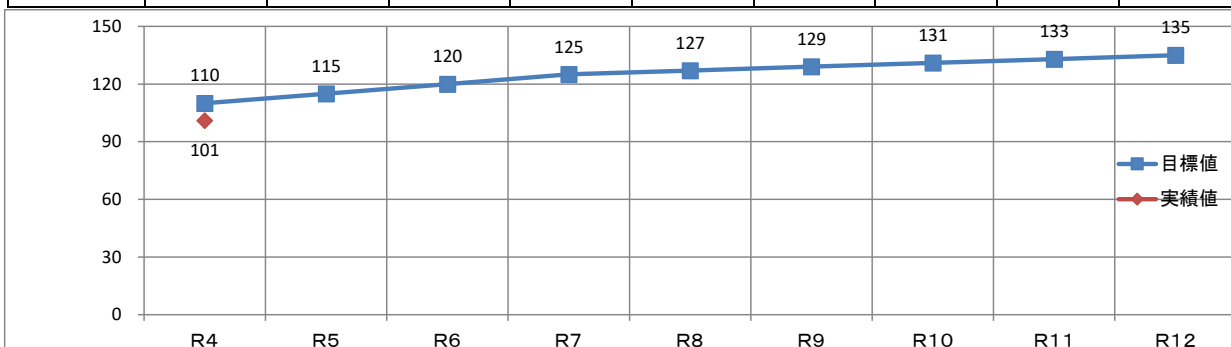
令和2年度と令和3年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は受講人数を制限しつつも講座を再開できるようになったことから、294人の実績となり、令和2年度に比較して講座受講者が戻ってきた。 ・一方、市町村の講座企画がマンネリ化しており、新規の参加者が少ない傾向がうかがわれる。そのため、今年度は、市町村訪問やニュースレター発行を通して、企画の参考になる県内の事例の紹介に取り組んだ。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村訪問や優良事例の積極的な共有により、市町村の連携と企画力の向上を図る。 ・各団体との連携により、県民への情報提供の強化を図る。 ・講師情報や若者・働き世代の受講者に向けた情報発信及び市町村担当者の企画支援のための生涯学習プラットフォーム構築を推進する。

No.3 福島県芸術祭参加行事数
【目標値:135件以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	110	115	120	125	127	129	131	133	135
実績値	101								



達成見込	・地域の新たな文化イベント等について市町村等を通じた芸術祭への参加の働きかけが不十分であったことに加え、コロナ禍で華道や茶道などの生活文化に係る一部の行事の中止が続いたこともあり、目標到達には至らなかった。
今後の取組	・県芸術文化団体連合会や市町村と連携して、地域で実施している文化行事の芸術祭への参加促進を図るとともに、芸術祭の広報・周知等を行っていく。 ・移住・定住等で県内を活動拠点とするアーティストが徐々に増えているなど、新たな活動成果発表等も芸術祭へ取り込み、芸術祭参加行事の多様化を図っていく。

○推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

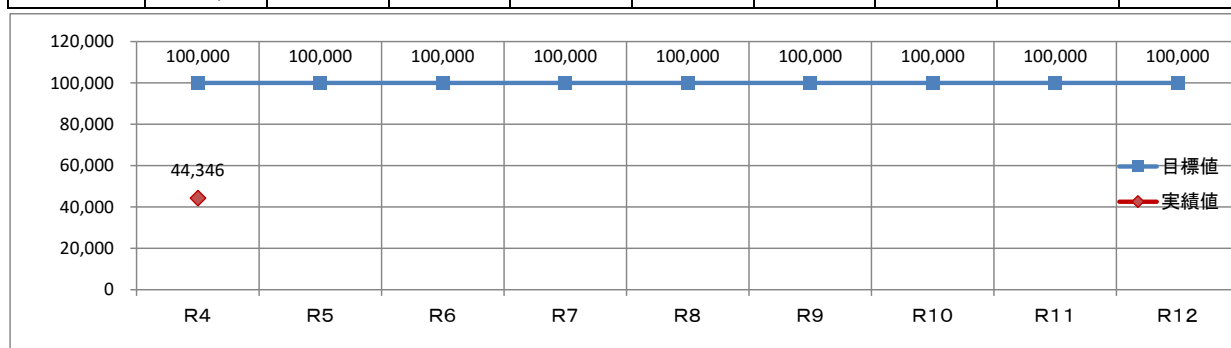
○推進施策6 文化活動を行う拠点の機能の充実

No.4 県立美術館の入館者数
【目標値:100,000人(令和12年度)】

評価
D (見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	44,346	10月末現在							



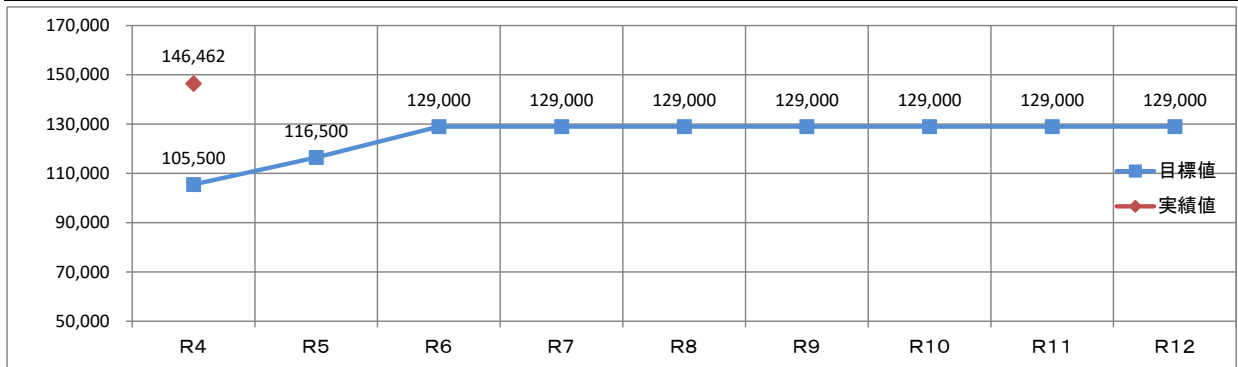
達成見込	・「写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き2&どうぶつ家族」の企画展は好評であり、年度末にも大型企画展を開催予定としているが、これら以外の企画展は小規模で入館者数が少なく、目標値の達成は困難な見込みである。
今後の取組	・魅力ある展覧会を企画し、効果的な広報を実施することで集客に努めるとともに、学校等の団体観覧受入や教育普及講座の開催等により、県民の芸術文化への関心を高めていく。

No.5 県立博物館の入館者数
【目標値:129,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	146,462	10月末現在							



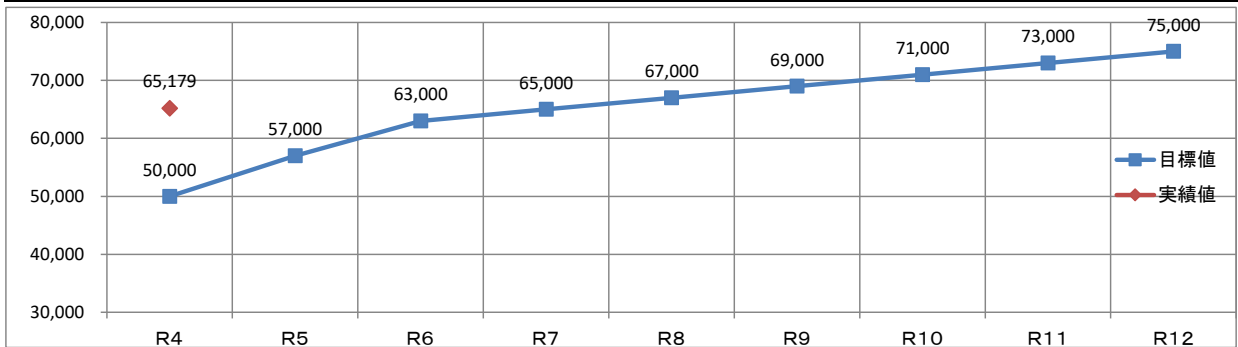
達成見込	・「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」(R2～6年度)に基づく館の機能強化や観光・周遊促進事業の実施、実行委員会形式で開催した「新撰組展2022－史料から辿る足跡」など、県内外から多数の来館者が訪れる企画展の開催により、年度前半で目標値を達成した。
今後の取組	・展示室のサイン表示・解説等の多言語化や部門展示室(民俗)、展示ロビー整備等による施設の魅力アップなどを通じて、外国語ユーザーやリピーターの確保を図り、引き続き入館者数の増加に努めていく。

No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値:75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	65,179	12月末現在							

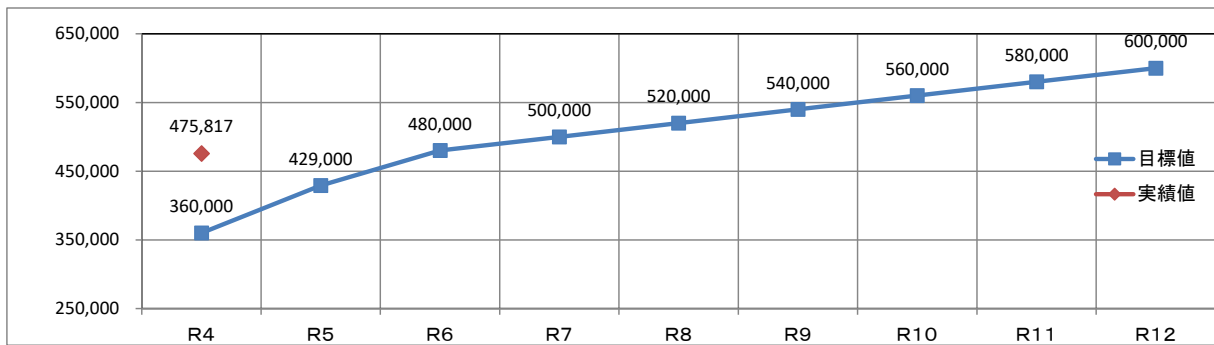


達成見込	・被災地域の復興のあゆみ・魅力発信事業による県内外への広報や浜通り地域等15市町村と連携した風評の払拭につながるイベントの開催、学校行事での利用に係るバス代補助を通じたPRなどにより、県内外からの利用者が増加できたことにより、年度の目標値を大きく上回った。
今後の取組	・震災・原発事故の教訓や記憶を福島の文化として継承していくとともに、館としての学びの魅力の維持・向上を図るため、計画的な展示内容の更新や企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムの充実などに取り組んでいく。

No.7 アクアマリンふくしまの入館者数
【目標値:600,000人(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	475,817	12月末現在							



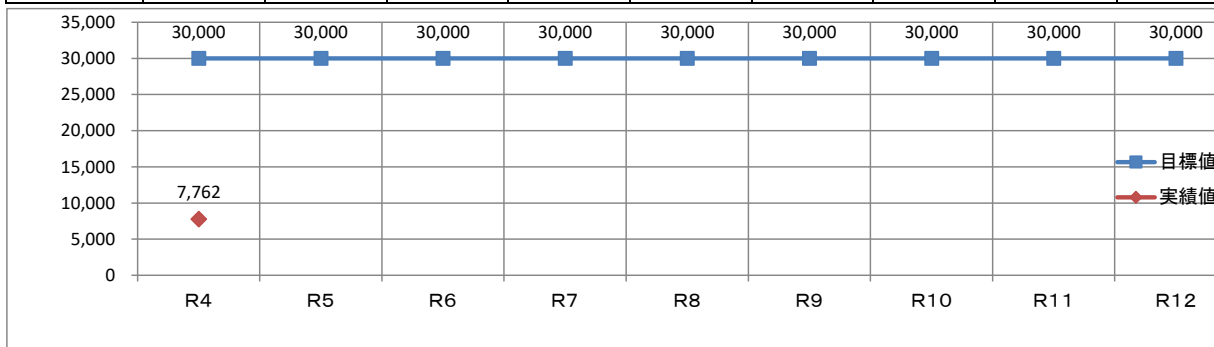
達成見込	・近隣施設と連携した入館料割引やSNS等を利用した情報発信に努めるとともに、バショウカジキの世界最長飼育記録の更新などの研究成果の積極的な広報活動などにより、年度の目標値を大きく上回った。
今後の取組	・魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。

No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	7,762	10月末現在							

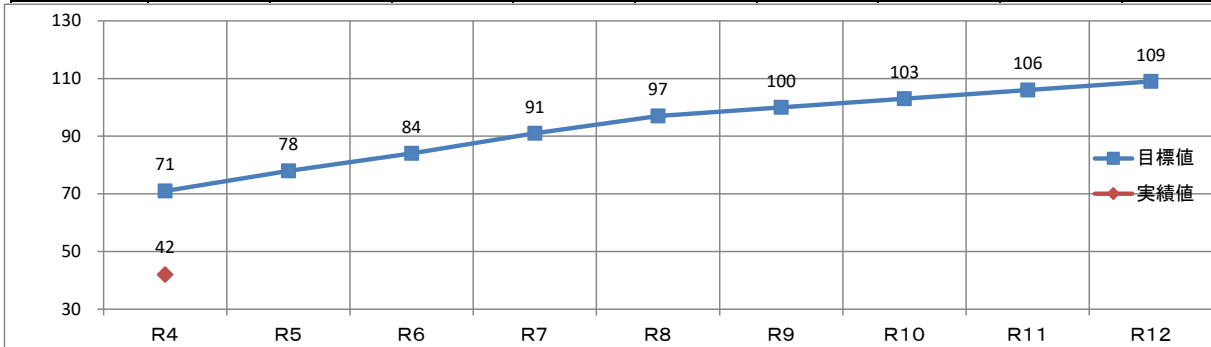


達成見込	・県内外の学びの類似施設(福島市:じょーもぴあ宮畑、郡山市:大安場古墳)等が競合する環境になってきたことや学校におけるカリキュラムの増加(英語、情報等)等に伴い学校の利用が減少したことなどにより、入館者数が伸びず目標を下回る見込み。
今後の取組	・ホームページ、SNSを含む戦略的な情報発信や来館者ニーズの把握によるリピーターの確保、類似施設との差別化などを図りつつ、各種展示の充実と質の向上に努めていく。

No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値:109件(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	42	11月末現在							



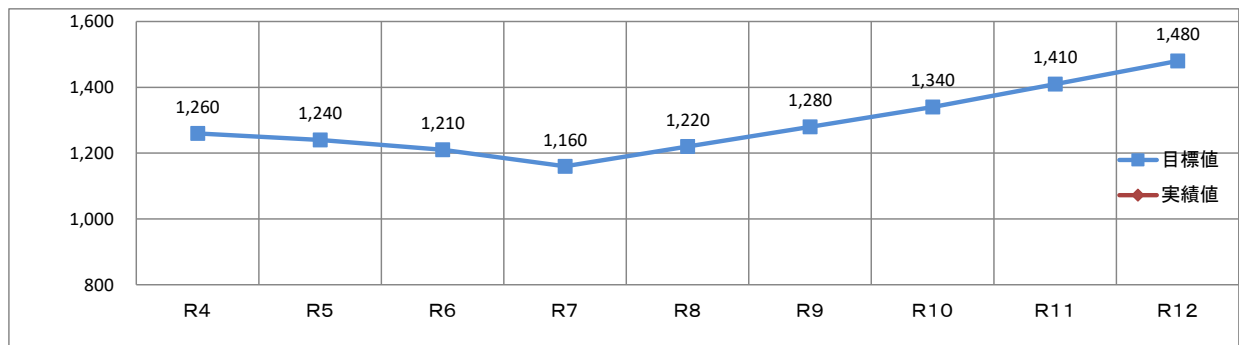
達成見込	・令和4年3月に発生した地震により客席天井が大きな被害を受けた大ホールが利用休止中であり、復旧までの間は催事件数そのものが例年より少なくなっているため、目標値は達成できない見込みである。
今後の取組	・県民からは大ホールの早期復旧を望む声が多くあるため、速やかな復旧に取り組んでいく。 ・指定管理者と連携して、大ホール以外の施設を利用した文化活動の促進を図っていく。

○推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

No.10 声楽アンサンブルコンテスト全国大会のライブ配信視聴者数
【目標値:1,480人(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	1,260	1,240	1,210	1,160	1,220	1,280	1,340	1,410	1,480
実績値									



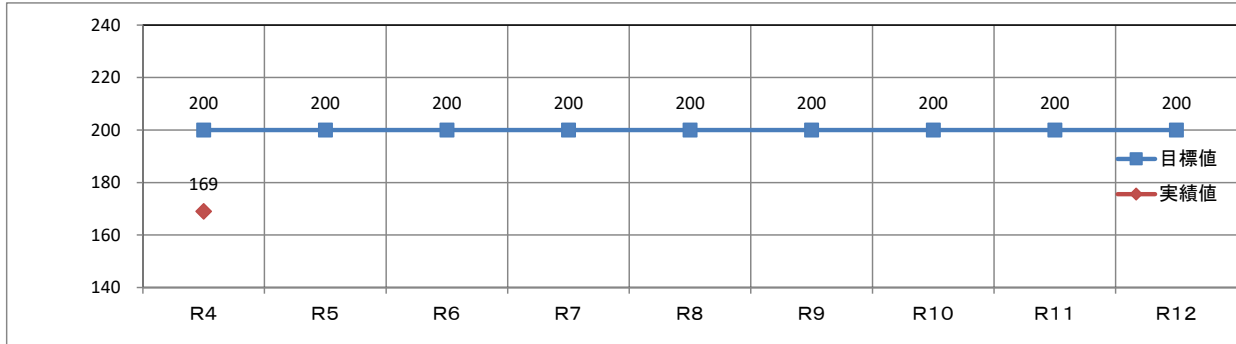
令和2年度と令和3年度の比較	・R2年度の大会はコロナ禍により無観客での開催となったため、演奏の様子をライブで配信した(R2の配信視聴者数実績:997人)。 ・R3年度もライブ配信を予定していたが、開催日直前の地震により大会を中止した。 ・R4年度の3月の大会については、会場での観覧席数をコロナ禍前と同規模にするとともに、会場で観覧できない方など、より多くの方が演奏を鑑賞する機会を拡充するため、ライブ配信を実施する。
今後の取組	・今年度のライブ配信の視聴者数等の実績を検証し、更なる増加に努めていく。

○推進施策3 青少年の文化活動の促進

No.11 青少年の県総合美術展覧会への出品数
【目標値:200点以上(令和12年度)】

評価
B

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	200	200	200	200	200	200	200	200	200
実績値	169								

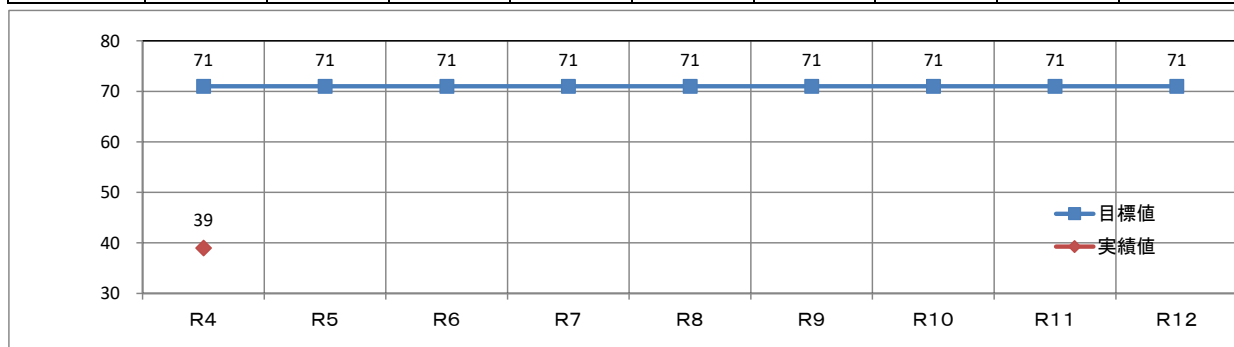


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等への周知活動が不十分であったことなどから、今年度も出品する学校が固定化し新規に参加する学校が少なく、方部によって出品状況にバラツキが見られ、結果として目標を下回った。 ・コロナ禍の影響で落ち込んだ出品数は回復傾向にあるが、コロナ禍前には戻っていない。 ※青少年は、高校生以上20歳以下
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県高等学校文化連盟との連携を進めるなど、学校と連携して県展の魅力のPRを強化していく。 ・美術部等の部活動が学校に無い場合でも、美術への興味、関心のある生徒が活動を始める・続けることができるように、文化団体や地域の指導者との連携を図っていく。

No.12 青少年の県文学賞への応募数
【目標値:71点以上(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	71	71	71	71	71	71	71	71
実績値	39								



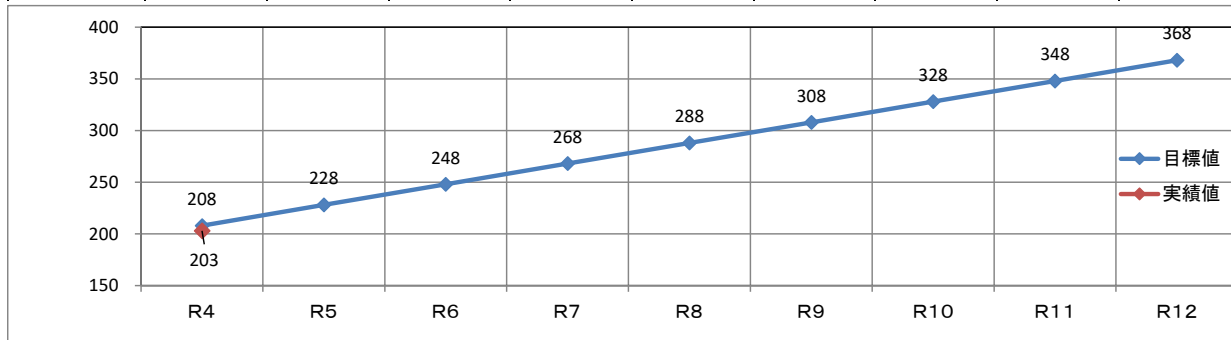
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年にとって応募しやすい環境づくりとして、R4年度より電子データでの応募受付を開始したが、授業の一環として応募作品の創作に取り組む学校が少なくなってきており、結果として県文学賞への青少年の応募数が減少し、目標を達成できなかった。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の文化活動も多様化しており、文芸活動に携わる青少年が減少傾向にあるが、R5年度は応募規格の見直し(短歌及び俳句部門で応募に必要な首(句)数を15→10に減ずる)を行うとともに、周知期間を延長し青少年がより気軽に活動に取り組める環境づくりに努めていく。 ・部活動だけでなく、授業の一環としても取り組んでもらえるよう、学校への周知に努める。

○推進施策4 伝統文化の継承及び発展

No.13 ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数
【目標値：累計368団体(令和12年度)】

評価
B

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	208	228	248	268	288	308	328	348	368
実績値	203								



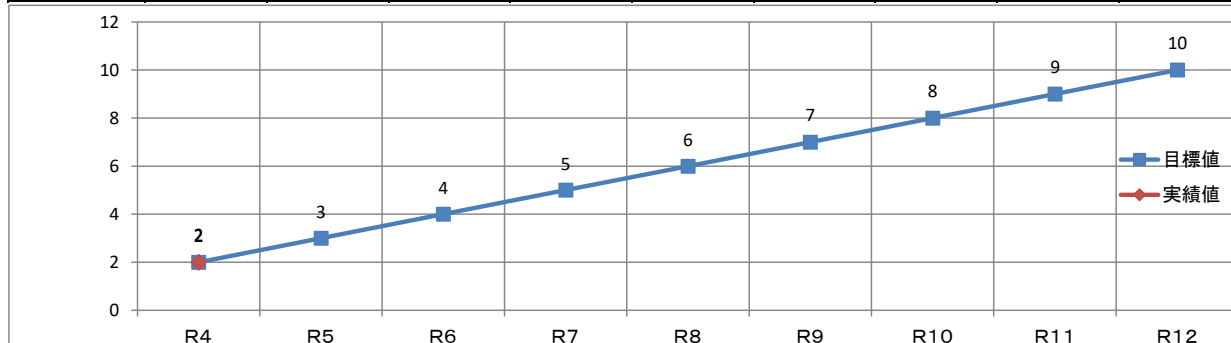
達成見込	・担い手不足等の課題を抱える団体に対して専門家を派遣し助言指導の支援などを行う「民俗芸能復興サポート事業」と一体的に、民俗芸能の継承・活動再開に向けた支援として、活動成果の発表機会となる「ふるさとの祭り」を開催している。R4年度は他行事の影響で予定団体数は確保できなかったが、概ね目標を達成した。
今後の取組	・県内各地で開催される各種イベントにおいて、民俗芸能をより多くの県民に知ってもらう機会、芸能を披露する機会を確保する観点から、「ふくしまの祭り」として参加できるよう調整を進めていく。 ・担い手の確保のため、移住者、定住者や県内外の大学生などが、民俗芸能団体との連携や活動の協力をしていく関係づくりに取り組んでいく。

No.14 市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数
【目標値：10市町村(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	2	3	4	5	6	7	8	9	10
実績値	2								



達成見込	・令和3年12月に白河市、及び令和4年7月に会津若松市の文化財保存活用地域計画がそれぞれ文化庁の認定を受け、目標を達成した。令和4年度は喜多方市、石川町が同計画の作成を進めており、次年度以降は他に3市町が作成の意向を示している。
今後の取組	・令和4年度から文化財保存活用促進事業を立ち上げるとともに、先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順などの指導助言・支援を行う「市町村支援プログラム」も活用し、文化庁の補助事業等の情報も提供しながら、市町村に同計画の作成を促していく。

(再掲)No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値：30,000人(令和12年度)】

評価
D (見込)

※県総合計画指標

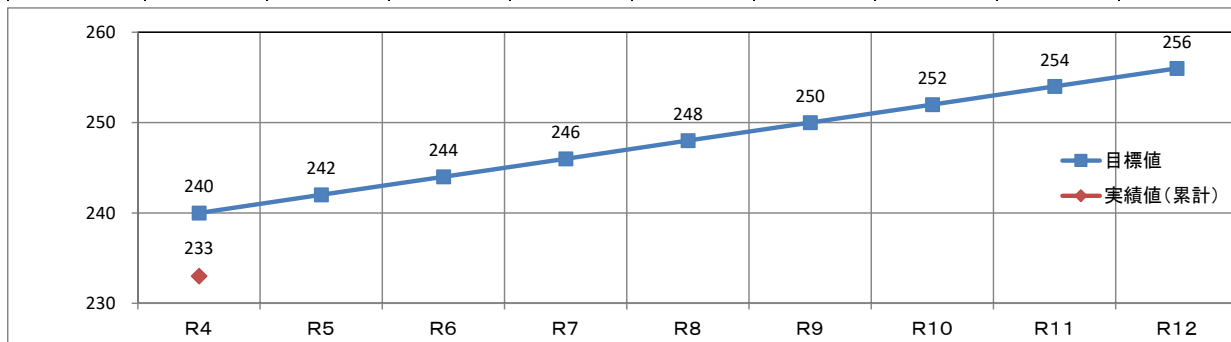
※再掲につき、記載省略

○推進施策5 生活文化の充実

No.15 食育実践サポーター派遣事業実績(登録者数)
【目標値:256人(令和12年度)】

評価
B

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	240	242	244	246	248	250	252	254	256
実績値(累計)	233	12月末現在							



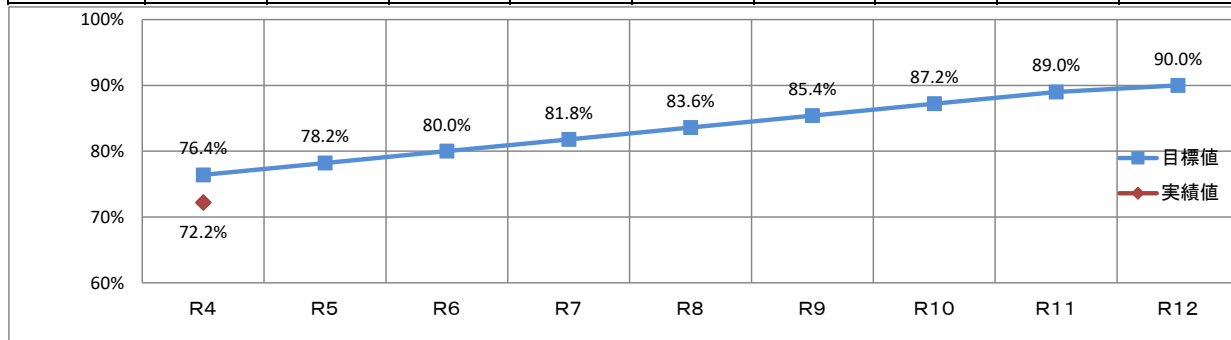
達成見込	・コロナ禍により食育活動の場が減少していることから、新たに食育活動を行う者が減っていると思われる。また、登録者の中には、活動を引退している者もあり、登録解除者が増えている。このため、新規登録者2名に対し、登録解除者11名と登録者総計は減少し、目標は達成できなかった。
今後の取組	・食育実践サポーターが活動できる場を増やすため、学校や地域団体等食育に関心がある団体に対し、食育実践サポーター派遣事業を周知し、派遣費用支援やそれぞれのサポーターの得意分野を活かしたマッチングに努め食育活動を行いやすい環境を作る。同時に食育実践サポーターを募集し、学校や地域団体等からの食育活動への派遣要請に応えられる環境を作る。

No.16 地元産の食材を、積極的に使用していると回答した県民の割合
【目標値:90.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	76.4%	78.2%	80.0%	81.8%	83.6%	85.4%	87.2%	89.0%	90.0%
実績値	72.2%								



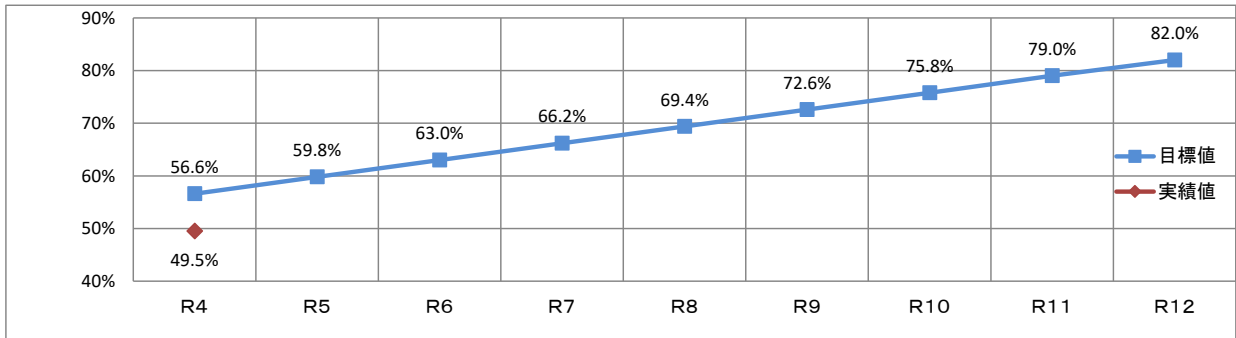
達成見込	・コロナ禍により、地場産品や郷土料理など地域の食文化の理解を深める食育活動の場が減少しているが、震災・原発事故で落ち込んだ学校給食における県産食材の活用の割合は毎年増加するなど、地域の食文化への理解・関心は高まっており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・幼少期から地場産品や郷土料理など、地域の食文化に触れ親しむ機会づくりを中長期的に継続していく必要がある。 ・このため、学校や企業、関係団体等による食育の推進や地域で受け継がれてきた食文化を認定する100年フード周知などに継続して取り組み、食文化や地場産品への理解を深め、地産地消の拡大につなげていく。

No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値:82.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%								



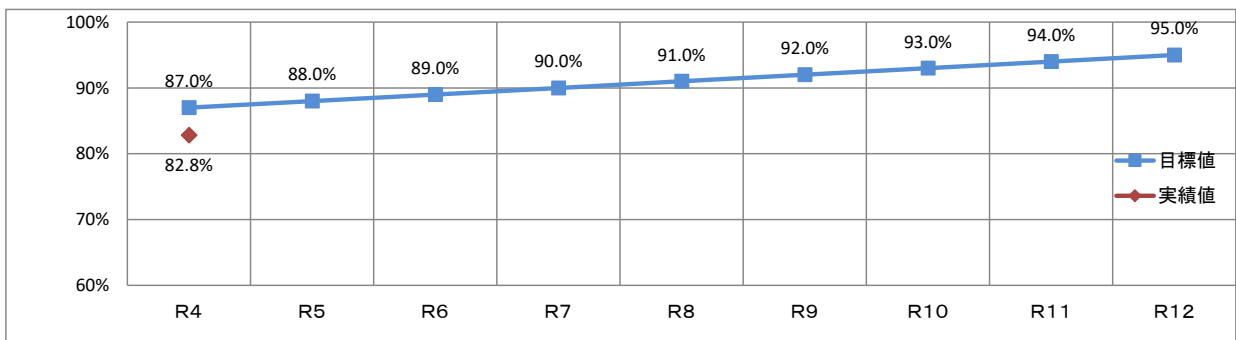
達成見込	・豊かな自然や美しい景観を文化的な資源として活用することで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋がっており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。

No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値:95.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%								



達成見込	・8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承していく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。 ・文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつつっていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。

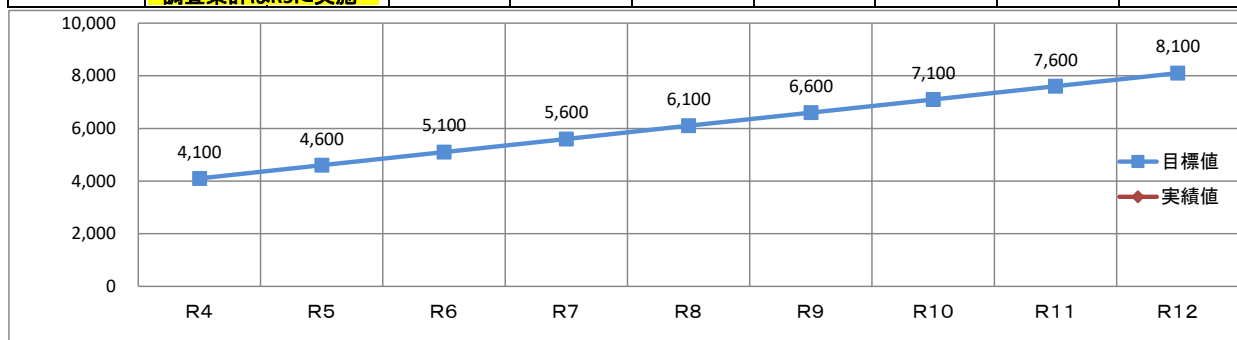
○推進施策7 文化の交流の推進

No.19 福島県教育旅行学校数
【目標値:8,100校(令和12年度)】

評価
—

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	4,100	4,600	5,100	5,600	6,100	6,600	7,100	7,600	8,100
実績値	調査集計はR5に実施								

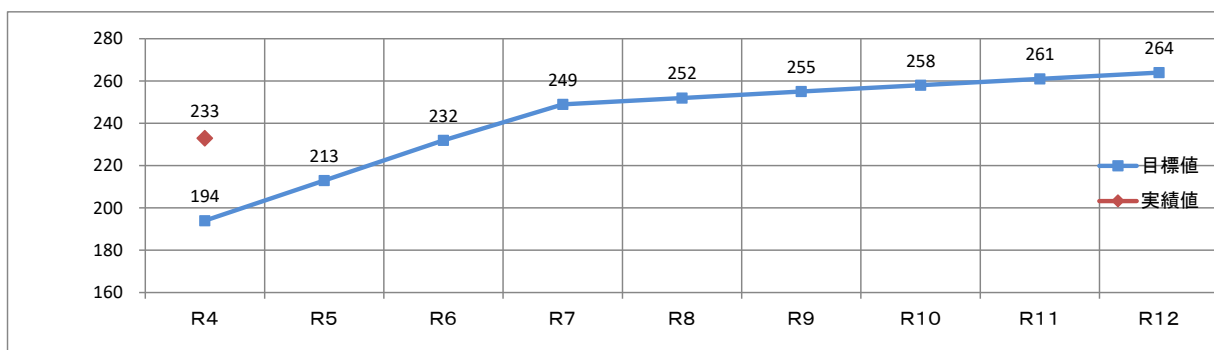


令和2年度と令和3年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校数(2,751校)は、前年度に引き続いてのコロナ禍の影響により、依然として低水準だったものの、近隣県を中心とした来訪の増加や、実施時期を延期しての実施などにより、回復の兆しが見られる。 ※令和4年度の学校数については来年度調査予定。(令和5年10月頃判明見込)
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行先を本県とする北関東圏の学校が増加していることを踏まえ、ターゲットを絞って営業活動を行っている。 探究型プログラムを充実させ、教育旅行の多様なニーズに応えられる体制を整える。 過年度のバス助成実績データの分析によりターゲットを明確にし、バス助成事業を活用した営業活動を継続して実施する。

No.20 声楽アンサンブルコンテスト全国大会の推薦及び公募団体数
【目標値:264団体以上(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	194	213	232	249	252	255	258	261	264
実績値	233	1月末時点見込							



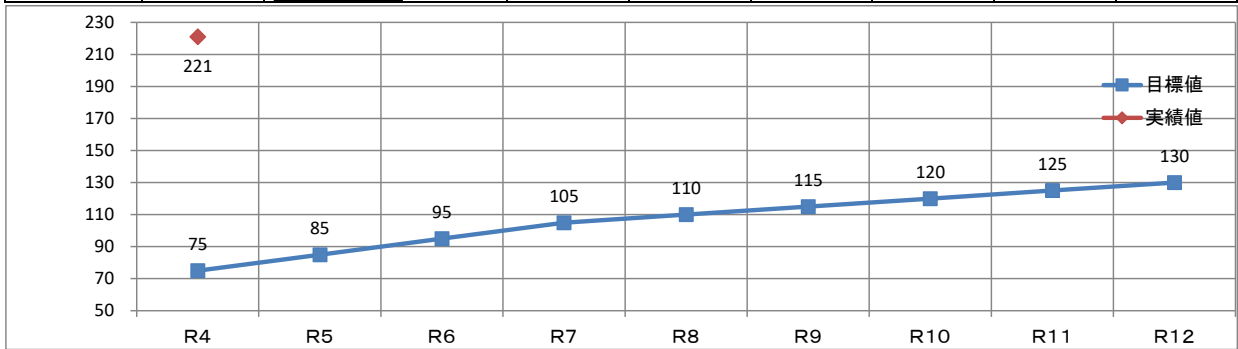
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 全国の合唱連盟への継続したPRや、R3年度からはTwitterを開設しフォロワーが1000人を超えるなど周知に努め、全国大会として認識が定着するなどの結果、過去最多となる39府県からの推薦団体の申し込みがあり、目標を上回った。 公募団体については、小学校・ジュニア部門が8団体に留まるなど、応募部門間で隔たりが見られる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> R12年度の目標達成に向けて、出場団体数を増やしていくための運営の見直しや工夫について関係者と検討・協議を進め、申し込み団体数の増加に努めていく。

No.21 ホープツーリズム催行件数
【目標値：130件(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	75	85	95	105	110	115	120	125	130
実績値	221	11月末現在							



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館の見学を中心とした伝承館プログラムの依頼が増加したことに加え、R3秋以降のコロナ禍による教育旅行の行き先変更や、本県でしか得られない新しい学びのスタイルが評価されたこと等により、令和4年度は目標を大幅に上回った。今後も、目標値以上の件数が見込まれる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 伝承館プログラムに対応ができるフィールドパートナーの人材育成を行い、その中から、更に1泊2日のホープツーリズムに対応できるフィールドパートナーの人材育成を行う。 一般観光客向けホープツーリズムに対しては、フィールドパートナーに代わり、新たにホープツーリズムガイドを育成し、需要拡大に備えていく。 企業研修版ホープツーリズムの顧客獲得に向けて、プログラムの造成・検証を行い、PR動画を活用した営業を行う。

※ホープツーリズム：複合災害の教訓等から持続可能な社会・地域づくりを学ぶツアー
 ※フィールドパートナー：ツアー中のアテンドや学びを支援する方(教育旅行を担当)
 ※ホープツーリズムガイド：一般観光客向けのガイド

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値：75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標
 ※再掲につき、記載省略

○推進施策8 文化振興による地域づくり

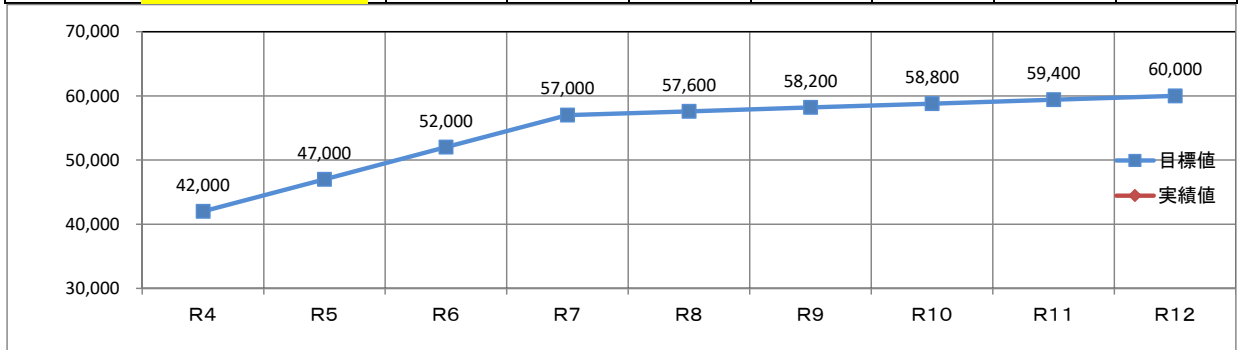
No.22 観光客入込数
【目標値：60,000千人(令和12年)】

評価
—

※県総合計画指標

(単位：千人)

年	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	42,000	47,000	52,000	57,000	57,600	58,200	58,800	59,400	60,000
実績値	調査集計はR5に実施								



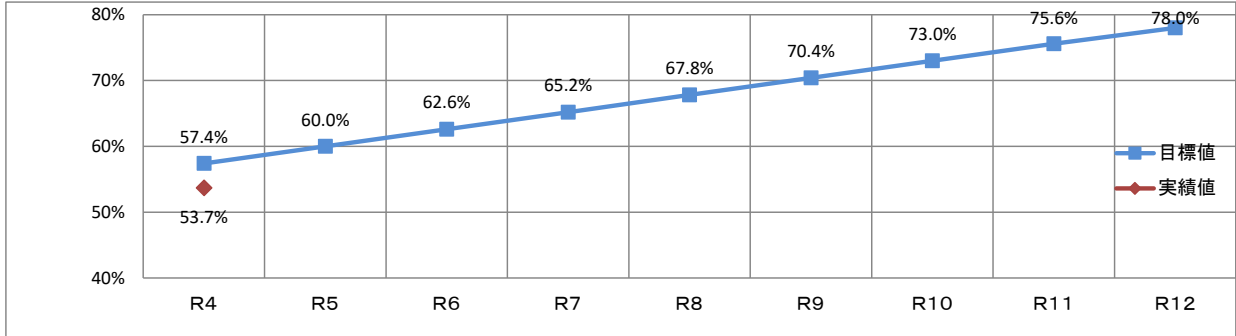
令和2年度と令和3年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> R3指標については、対前年比で737千人減(△2.0%)の35,454千人の実績となったが、これは、通年でコロナ禍の影響があったほか、令和3年2月福島県沖地震の影響により減少した結果である。なお、2月～3月に県民割、10月から県民割プラスにより観光需要喚起したため、実施期間中の入込数は、対前年比と比較し、微増または同程度で推移した。 ※R4指標については4月に速報値公表となる見込み。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響による入込数の落ち込みからの回復と、コロナ禍のような外的要因に左右されない安定的な観光需要の獲得、県内観光地やコンテンツの認知度向上が必要である。 このため、福島県観光復興推進委員会として各分野との連携による誘客促進や、近隣県における一定のセグメント(特定の条件で細分化したグループ)をターゲットとしたプロモーション、観光コンテンツの磨き上げや新たなツーリズムの推進を行っていく。

No.23 国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)があると回答した県民の割合
【目標値:78.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	57.4%	60.0%	62.6%	65.2%	67.8%	70.4%	73.0%	75.6%	78.0%
実績値	53.7%								



達成見込	・県内各地の風土に培われた地域の民俗芸能、合唱王国福島に代表される芸術文化、食や美しい自然・伝統工芸など福島の魅力の発信を通じて、県民が多様な文化資源を地域の宝として再認識することで、地域への誇りや愛着を育み、概ね目標値を達成した。
今後の取組	・地域のまつりや民俗芸能など伝統文化の継承や発展、地域の文化財の保存や活用促進、芸術文化の発表や鑑賞機会の確保などに努め、地域への誇りや愛着を高める取組みを進めていきます。

(再掲)No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合
【目標値:82.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

※再掲につき、記載省略

(再掲)No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合
【目標値:95.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

※再掲につき、記載省略